

# ICT教育の理論と方法 第11回



## ICT機器を効果的に活用した実践と発表①

山梨大学 教育学部 准教授 稲垣 俊介

# この授業のお約束

- 自分から動いてアクティブに学んでください。  
受動的だけでなく、能動的に参加してください
- この授業内でのインプットは少なく  
皆さんのアウトプットの共有が多い授業内容です。
- 意識してPCとスマホを駆使してみましょう。

# 講義のカリキュラム

1. リフレクション紹介

2. 授業の紹介発表

3. 講師からの授業紹介

# 自由課題

自身で作成した「情報モラル」「情報活用能力」を育む授業について紹介する発表してもらいます。  
発表日は12月8日、15日、22日です。

- 発表は必須ではありません。発表した人には必ず加点します。
- 発表時間はこれからのアンケート結果で変更します。
- 発表日、発表を希望される人は、みなさんから見て左側一番前から右に向かって座ってください。
- スライドの表紙と最後にお名前と学生番号を大きく見やすいフォントで記してください。

# 発表予定者

12月8日

12月15日

12月22日

# 最終課題

これまで本講座で学んできたことをふり返り、それを踏まえて「あなたがどのような教員になりたいのか」をまとめてください。締切は2026年1月25日です。

タイトルを必ずつけ、章立てを行ってください。分量は3000字以上とします。提出ファイルはWordファイル (.docx) のみ受け付けます。PDF、Google Docs形式、画像などは不可です。

文章は、中学生でも読める読みやすさを心がけてください。ただし内容が軽くなる必要はありません。読み手が誤解しないよう、明確で論理的に書いてください。文体は「です・ます」「だ・である」どちらでも構いません。

根拠のない思い込みではなく、文献や授業で扱った内容を必ず引用してください。文献の引用は一般的な引用ルールに従ってください。授業内容を引用する場合は、以下のように授業名と回数を明示してください。

例：「第8回授業において稻垣は「～～～」と説明した。」

最後に、この授業を通して「どのような教員を目指すのか」を明確に述べてください。

あなたの名前は削除し、今後の後輩たちに見せる参考レポートとして使用しようかと考えています。  
理由の如何にかかわらず、遅れての提出は受理しません。

提出開始日（1月19日）から書き始めると間に合わない可能性が高いため、各自で計画的に作業してください。  
最終授業（1月19日）には、レポート作成のヒントをお伝えします。

# 実習 3

この授業で学んだことを「深く」考えて書きましょう。  
また、どのように自分の教科に取り入れていけばいい  
でしょうか？その視点も取り入れて書いてくださいね。

# この講義の感想や学んだこと

合理的配慮の行き過ぎは良くないという先生の言葉には納得し、深く共感した。障がいの他にもジェンダーや文化などがテーマになることもあるが、こういった話題は繊細なものとして触れられないことが多いように思う。よく分かっていないからこそこうしたことが起こるのだと考えるため、お互いの理解を深め、思いやりをもちあうことが大切だと感じた。

# この講義の感想や学んだこと

教員自身がその場にあった授業や対応が必要であるという先生の意見があった。私もこの意見に賛成だと考えている。加えて、授業用のスライドの教材があることを知った。この教材をAIを使って参考にしやすいものを選んでもらえるシステムがあったら、教員の働き方の改善にもなるし、生徒とにあった教育の提供もしやすいと思った。AIのシステムを作ることはできないが、その分、いろいろな教育法を今のうちに知っておきたいと感じた。

# この講義の感想や学んだこと

今日は特に難しいテーマだったと思います。「あたりまえのアクセス」を考えるとき、自分が無意識のうちに差別的になっているのではないかと思う瞬間があり、とても不安になりました。でもどんな人でもあたりまえを求めるることは当然の権利でもあると思うので、それが他者を傷つけたり、行き過ぎた主張にならなければいいと思います。

# この講義の感想や学んだこと

ICTを使って受験することは、メリットが多いと思いますが、各自の機会を用いる型式にすると家庭の経済格差が受験に反映されてしまうだろうし、試験管にもICT技術を用いるスキルが要求されてしまうから難しいなと感じました。

特別支援の講義を大学内で受講した際に、先生が、生徒の反応を観察して、どの反応が肯定的を示していて、どのような反応が否定的なのかを分析して、その子のニーズに合わせた授業を行っているという話をしていて、相手によって求められる教育の形が大きく変化するということを実感したことを思い出しました。

裁判の話がありましたが、私も人間は人間が裁くべきであると考えます。

テストの平等さの話が合ったが、私は、「マジョリティーの能力に合わせるため」ならば必要であるとは思っています。つまり、あまりよくない言い方ですが、「大多数が当たり前にできること」をできるようにするために、補助を行うことは公平の観点のもとでは必要であると考えます。しかし、基準の制定が難しく、実現は不可能であると考えます。

# この講義の感想や学んだこと

障がいのある方の試験にどこまでの配慮をするかについて、試験となると話が変わってしまうのが残酷だと思います。そして私も残酷な対応を考えてしまう側なのだと思います。私は眼鏡をかけていますが、そこが問題視されるのは、試験の問題・内容が記憶や空間の認識についてであるからなのだろうと思います。文章を読むのが視覚的に大変な人は見ている部分に色がつくとか、そういう機能なら良いと考えました。

教職課程を履修していると特別支援教育の講義ではなくとも特別支援や障がいについて学ぶ機会が多いので、その度に考えていますが結論は出ないし自分の都合のいい考え方しか出ないようにうんざりします。

ICTから特別支援に焦点を当てるよう、さまざまな角度から見ていくようになりたいと思います。

# 自由課題

自身で作成した「情報モラル」  
「情報活用能力」を育む授業について紹介する発表してもらいます。

12月8日

発表日は**12月8日、15日、22日**  
です。

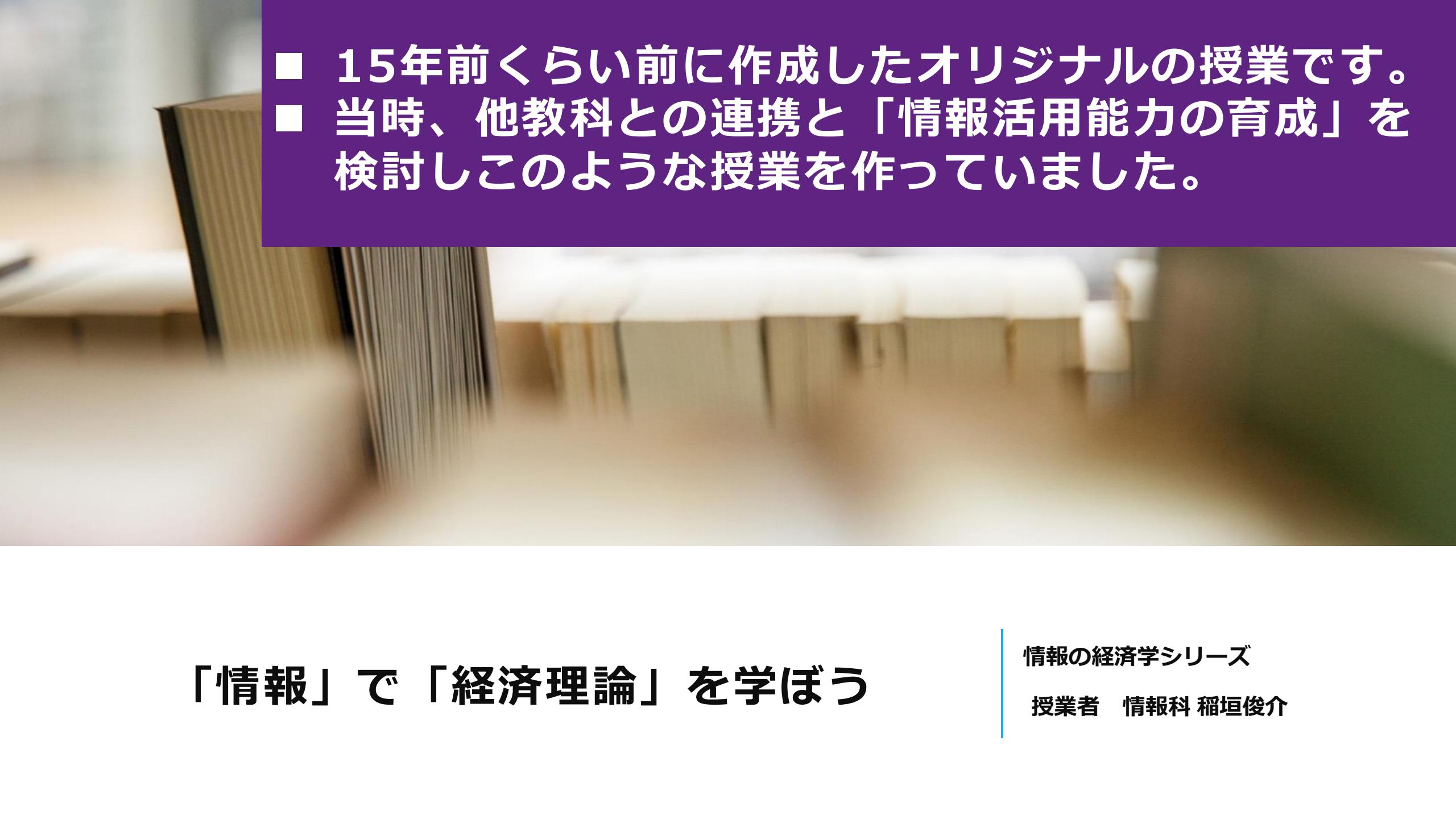
- 発表時間は5分です。
- 交代を含めてお一人の時間は6分でこちらで切れりますね。

# 講義のカリキュラム

1. リフレクション紹介

2. 授業の紹介発表

3. 講師からの授業紹介

- 
- 15年前くらい前に作成したオリジナルの授業です。
  - 当時、他教科との連携と「情報活用能力の育成」を検討しこのような授業を作っていました。

## 「情報」で「経済理論」を学ぼう

情報の経済学シリーズ

授業者 情報科 稲垣俊介